

# 麻疹（はしか）・風しんの予防接種をうけましょう

麻疹・風しんはウイルスによる感染症で、春から夏にかけて流行がみられます。予防するには予防接種を受けることが大切です。

現在、風しんの流行がみられていますが、麻疹・風しんワクチンで、麻疹と風しんを予防することができます。

麻疹は、感染から10～12日間の潜伏期間ののち発熱や咳などの症状で発症します。感染力が非常に強く、重症化すると肺炎や脳炎を合併することもある病気です。

**麻疹Q&A** (<http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html>)



風しんは、感染から2～3週間の潜伏期間ののち発熱や発疹、リンパ節腫脹などの症状がみられます。麻疹に比べて症状は軽いものの、妊娠初期の女性が風しんにかかることによって生まれてくる赤ちゃんが難聴、心疾患、白内障等の障がい（先天性風疹症候群）をもって生まれる可能性があります。

**風しんQ&A** (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>)

現在、1歳児と小学校就学前1年間の子どもたちに加えて、平成25年3月末まで13歳（中学1年生相当）と18歳（高校3年生相当）の人たちも定期接種としての予防接種を受けることができますので、対象年齢の人は、早めに予防接種をうけましょう。予防接種は、より効果を確実にするために2回接種が勧められています。1回うけたことがある人も、2回目をうけるようにしましょう。

具体的な接種方法については、お住まいの市町村にお問い合わせください。

## 麻疹・風しんの定期予防接種の対象年齢

第1期：1歳児

第2期：5歳～7歳未満で小学校就学前の1年間（就学前年度4/1～3/31）

第3期：中学1年生相当（13歳相当）・・・平成25年3月31日まで

第4期：高校3年生相当（18歳相当）・・・平成25年3月31日まで

各年齢の対象者は、対象年齢が過ぎると、定期接種として、麻疹・風しんの予防接種を受けることができません。とくに、第3期、第4期は平成25年3月末までとなっているので、対象年齢の人は、忘れないように早めにうけましょう。

対象年齢以外で、麻疹・風しんの予防接種を希望される方は、任意接種としてうけることができます。各医療機関にご相談ください。



子どもの時に、麻しん・風しんの予防接種を1回うけたのに、もう一度うけるの？注射はいやだなあ。



いままで日本では麻しん・風しんの予防接種は1回接種でしたが、1回接種では効果が不十分な場合があることがわかり、平成18年から、定期接種として2回接種が始まりました。麻しん・風しんの予防接種を1回うけたことがある人も、より効果を確実にするために、2回目の予防接種をうけましょう。すでに、麻しん・風しんの予防接種を2回うけた人はうける必要はありません。



どうして中学1年生相当と高校3年生相当に予防接種をするの？



麻しん・風しんの予防接種を1回しかうける機会がなかった世代があるため、平成20年4月から5年間をかけて、小学生から高校生まで、全員が麻しん・風しんの予防接種を2回うけられるようにしています。今年度が最後となっていますので、対象年齢の方は、平成25年3月末までに忘れずにうけてね。

<参考ホームページ>

厚生労働省 麻疹風疹

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou21/>

厚生労働省 麻疹の予防接種について

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/mashin-yobou/>

国立感染症研究所感染症情報センター 2012年麻疹排除にむけて

<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>

国立感染症研究所感染症情報センター 風疹とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>

神奈川県 麻疹（はしか）の予防接種をうけましょう

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7481/>

